

“仲間”のAMDA感激

「国境なき医師団」と同様、世界の紛争地域や自然災害発生地域で緊急医療活動を展開している国連NGOの「アジア医師連絡協議会」(AMDA、

本部・岡山市)の菅波茂代表(52)らも、同医師団のノーベル平和賞受賞を祝福した。

AMDAは、同医師団結成の約十三年後の一九八四年八月に設立。九一年から紛争による難民や自然災害の被災者らに対する治療な

どを始め、国内外合わせて医師や看護婦ら二千人以上の会員を擁する。

同医師団とは、同年のイラン・クルド人難民緊急支援から接触があり、同じ場所で医療活動にあたる機会も多く、不足した医療物資の援助や情報交換など、助け合いながら負傷者らの救護活動に尽くしてきた。

コソボや台湾などでも一緒に医療活動をした医師三宅和久さん(37)(岡山市)

は「歴史もあり、世界トップの医療NGO。これまで平和賞をもらっていなかったのが不思議なくらい」と話した。

菅波代表は「国境なき医師団の良さは、フランス政府や市民と連携を密にしている点だ。同じ医療貢献団体の受賞ということで、NGO活動が社会的な認知度を増し、役割が認められることになってうれしい」と受賞をたたえた。